

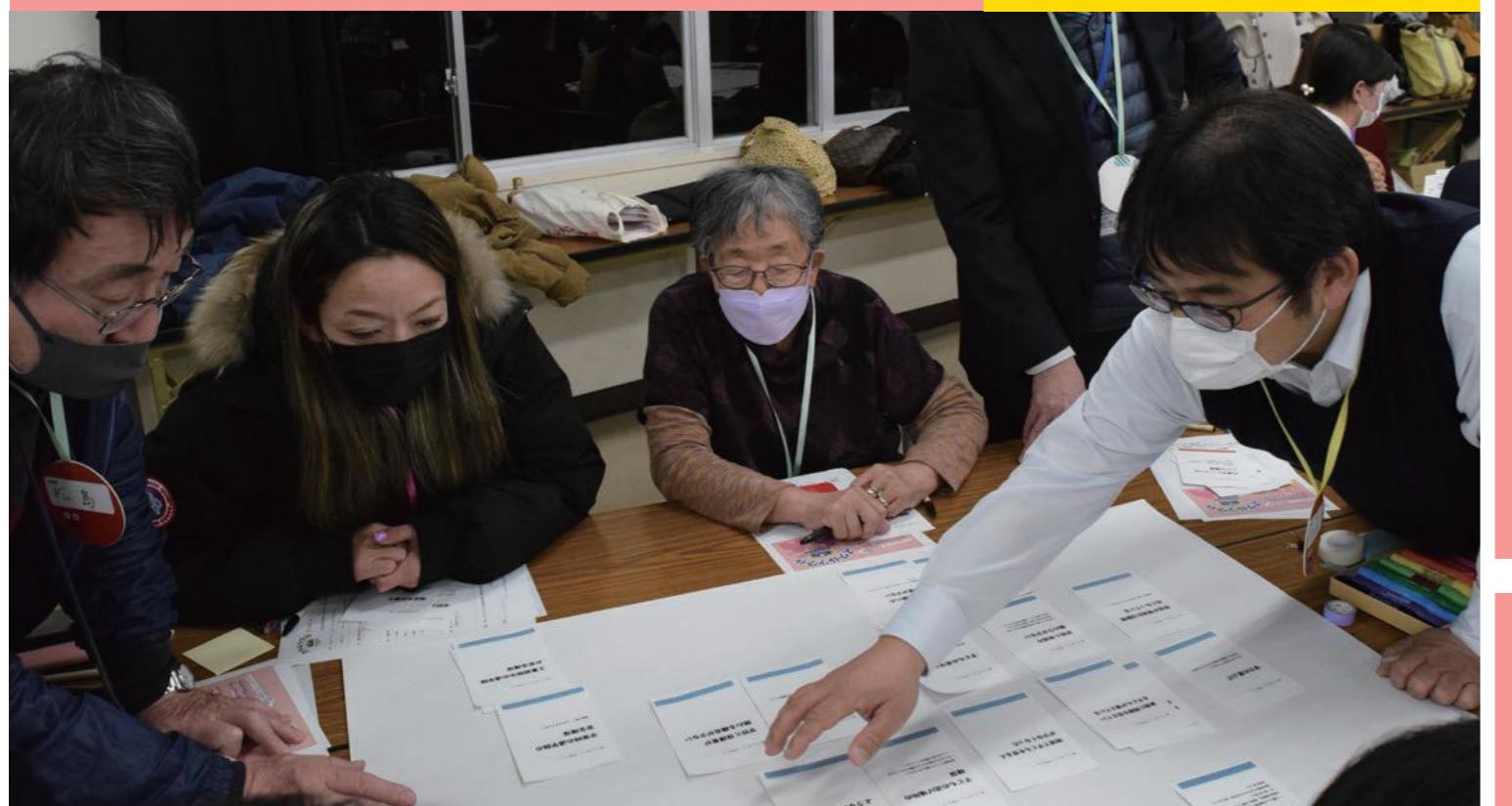
みんなでつくる！未来の学校  
第四中学校区小中一貫校を  
考えるワークショップ

ニュースレター  
Newsletter  
2022/2発行

Vol.1



第1回「小中一貫校を学ぶ」  
2021/12/21(火) 19:00~21:00  
門真市教育センター 研修室A  
参加者：30名  
発行元：門真市教育委員会



門真市教育委員会 教育長挨拶

私がこの事業に対して持っている思いが3つあります。1つめは、市民の皆さんと素晴らしい学校をつくって、地域の核となる学校を目指すこと。2つめは、早く子どもたちに素晴らしい学習環境を与えてあげられるよう進めること。3つめは、リーディングプロジェクトとして、先駆的な役割をはたすものにすることです。「教育からまちを変える」という思いを持って、みなさんと一緒に進めていきたいと思います。



門真市教育委員会  
久木元 教育長

第四中学校区小中一貫校の整備について

教育委員会より整備の概要に関する説明を行いました。脇田小学校・砂子小学校・第四中学校を統合し、令和7年中の校舎完成に向けて小中一貫校をつくります。また、新しい学校の整備に向けては、「児童にとってより良い学校づくり」「まちづくりの核としての学校づくり」を目指していきます。



ワークショップ「スクールツクール」について

スクールツクールで検討する内容について説明しました。スクールツクールは、学校の「整備」を考える場になります。小中一貫校の整備事業ではスクールツクール以外にも、学校の「運営」を考える準備会や、子どもたちに新しい学校のイメージを聞く場、先生方が学校の施設について意見交換する場があります。このスクールツクールでは、学校の整備に向けたコンセプトを考えていくにあたり、地域の人も関わって、みんなで様々な事例を学びながら考えていきます。

スクールツクールの目的

砂子小学校、脇田小学校、第四中学校が  
ひとつになった小中一貫校の実現

子どもたちが9年間過ごす  
**新しい学校の整備** を検討する場

- ・学校校舎の配置
- ・子どもたちの学習空間
- ・学校内に必要な設備や備品
- ・先生たちの職場環境
- ・地域と学校との連携



子どもたちの学習環境を考える

今年度の目標

- ・大きな整備方針 → コンセプト
- ・学校に持たせる機能
- ・学校の施設配置

学校をどう使うのか？誰が使うの？

どんな教育が必要なのか？

どんな子どもに育ってほしいか？

みなさんと一緒に  
考えてみます



小中学校の思い出自己紹介

学校整備の先進事例を見ながら、それぞれの参加者が「いいな！」と思った事例の写真にシールをはりました。その後、シールをはった理由と小中学校の思い出を交えて、テーブル内で自己紹介をしました。

参加者のみなさんが

いいな！と思った事例トップ5



1 開放的で居心地のよい図書室  
(京都市・開晴小中学校)



2 しゃべったり遊んだり休み時間に賑わう廊下  
(京都市・凌風小中学校)



3 空調を完備した体育館  
(守口市・さつき学園)

4 部活動ができる屋上空間 (京都市・凌風小中学校)

5 学校に関わる地域住民が使う地域支援室 (守口市・さつき学園)

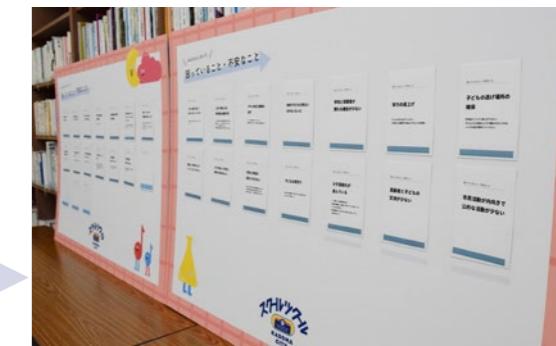
## 意見交換「新しい学校でできそうなことを考えよう！」

ヒアリング結果をまとめたカードから共感したり気になるカードを選び、それぞれの参加者が選んできたカードをグループ内で共有しました。内容に応じて、新しい学校でできるとよさそうな事例をファシリテーター（進行役）が紹介しつつ、門真の新しい学校でできそうなことを意見交換しました。



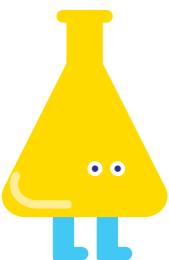
## ヒアリング結果を知ろう！

ワークショップに先立ち、学校や保護者、地域など、22の学校関係者にヒアリングを実施しました。その結果を「困っていること・不安なこと」「学校や地域の取り組み」「これからやってみたいこと・考えたいこと」の3種類にわけ、カードにしてパネルに展示しました。



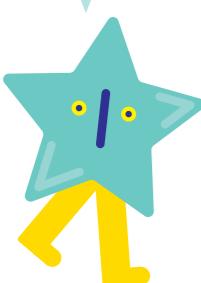
はん  
1班

地域や保護者など大人が学校に積極的に関わることの大切さ、さまざまな国とつながりのある子どもたちへの支援や相互理解、子どもたちに様々なことを経験させたいという意見がでました。



はん  
3班

学校と地域の交流や世代間の交流が必要という意見や、子どもたちのあこがれの存在、目標になるような大人が身近にいることが大事だという意見がありました。



はん  
5班

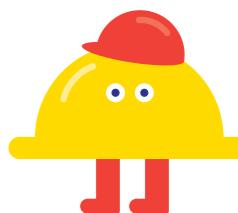
子どもたちの学力向上や経験につながる取り組みの必要性や、安心安全の確保に関する意見があり、そのためにも、地域連携が重要であることの意見がありました。



地域連携に関する意見が全体の3分の2ほどを占めました。その次に学力や家庭の問題があがり、次いで小中一貫校について知る必要があることを確認しました。

地域との連携（学校と地域をつなぐしくみづくり／学校の負担にならない学校－地域連携／レンコンをテーマにした取り組みで連携／広場でボールを使うための提案を検討）・学力や家庭の問題（総合学習の時間を上手に使いたい／子ども同士が対話しながら学ぶ時間が減少／基礎学力だけではなく、人間力を高める教育を展開）・そもそも小中一貫校について知ることが大切

はん  
2班



地域連携・子どもの見守り・学力問題のほか、別の地域から来てもらえるような魅力があり、子どもたちに誇りを持ってもらえるような学校にしたいとの意見がでました。

はん  
4班

地域との連携（子どもたちと地域が関わる機会を持つ／保護者の負担にならない連携／宿題カフェを団地で実施中）・子どもの見守り（子どもが安心して過ごせる場所をつくる／安心安全を考えたい）・学力について（基礎学力の底上げ／主体的に取り組む力を持つほしい）。さまざまな国とつながりのある人の関係づくり・子どもたちが誇りを持てるような学校にしたい（交通の便の悪さをこえる魅力を持つ学校にしたい／地域の特産品や特徴を入れたい）



## アンケート結果より

Q. 第四中学校区小中一貫校整備について知りたいことを

おし  
教えてください。

1 地域連携の可能性

2 9年間という長期スパンの教育のメリット

3 環境が合わない児童への対応

## 先進校視察会

2022/1/12 (水)

視察場所：凌風小中学校（京都府京都市）

Q. 子どもたちの学校生活中で実現すればいいなと感じたことを教えてください。

子ども同士の交流／地域の人も出入りできる場所／広々としたろう下／誇りを持てる校舎／安全と安心／大学と連携した教育

第2回「子どもの教育を考える」

2022/2/16 (水) 19:00~21:00